

令和3年度卒業式 式辞

皆様、卒業及び修了、大変おめでとうございます。

本日は、学部において212名の皆さんが卒業し、学士の学位記を受け取り、大学院においては17名の皆さんが修了、修士の学位記を受領することとなりました。誠におめでとうございます。本学の教職員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。また、皆さんをこれまで励まし支えたご家族の方々にも、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

本日は年度末の大変お忙しい中、千歳市長 山口 幸太郎様、千歳市議会議長 山崎 昌則様にご臨席いただきました。あつく感謝申し上げます。

ご存じのように、新型コロナウイルスの感染が、長期にわたり、国内外に影響を及ぼしております。本来ならば、すべての関係者が、一堂に会して、本式典を実施したいと希望しておりましたが、結果として、このように規模を縮小して挙行することとなりました。

卒業生・修了生の皆さんにとって人生の節目としてかけがえのない式典であり、またご家族の皆様もその晴れの日を楽しみにしておられたことと存じます。卒業生・修了生の皆さんには、健康と安全を保ち、新年度からの新たな進路で無事ご活躍いただきたく、今回の形式とさせていただきますので、ご理解いただければ幸いです。

今回卒業・修了を迎える皆さんは、「人格陶冶」，「人知還流」という言葉、記憶にありますでしょうか。入学時、或いは在学中に、どこかで聞いたことがあるのではないかと思います。今から24年前、この千歳の地に、本学が創設されたとき、初代の学長である佐々木 敬介先生が謳われた建学の精神です。

「人格陶冶」とは、ひとりひとりが、人間として正しい生き方を追求し、自らを常に進化させ、いかなる場合でも人間として正しい行動が取れるように自己研鑽することを意味します。正しい倫理観・道徳観で、向上心を高く持ち、前向きに生きてほしいということです。

「人知還流」とは、大学で学んだ皆さんが、そこで得られた知恵を、広く社会に役立てること。それにより、社会全体が発展し、より良い世界とすすむ。結果として、その社会の中で、新しい知恵や知識が育ち、それをまた皆さんが学ぶ。このような、プラス指向の知恵の循環を意味しています。

いま世界では、いろいろな地域で衝突が発生し、悲惨な戦争が繰り返されています。我々の国においても、難しい問題があるように思います。グローバル化が十分進んで、多くの情報が世界全体で共有され、経済活動などにおいては、お互いに

助け合ってゆく必要があるはずの現代ではありますが、情報の使い方を間違え、或いは悪用することで、大変な事態が起こるという意味かと感じています。

実は、我々の身の回りでも、SNSなどを通して、フェイクニュースやフェイク動画、詐欺メッセージ、ウィルスやワームなどなど、多くの問題が、点在しているように見えます。

皆さんの専門は、応用化学・生物、電子光工学、情報システム工学の各分野となりますが、同時に、情報科学の基礎技術も学んだ、これからの時代に適した新しい人材です。これから出会う社会は、皆さんが持っている情報や、これから皆さんが生み出す情報を、うまく取り入れ、活用し、発展させる社会であるとともに、その情報を搾取し、悪用するような、危険な社会でもあります。情報リテラシーとは、自分の周りにある情報を十分に使いこなせる能力ですが、今後の皆さんは、視点を常に世界に向け、情報リテラシーに加え、情報セキュリティ、情報マネジメントも使いこなせる、新時代の科学者・研究者・技術者になってほしいと期待しています。

冒頭にお話した新型コロナウイルス感染症にかかわることですが、この2年間の間、多くのことが制限され、皆さんにとって、充実した大学生活を送れたのだろうか、勉強や研究活動を、思うようにすすめることができたのだろうか、心配しています。特に、大学における友人とは、価値観を共有できる、大切な友となるはずですが、そのような友を作る機会や時間が十分あったのかどうかと、考えておりました。一方で、オンライン化されたツールを、縦横無尽に使いこなして、今までとは異なる、よりグローバルな活動をしていたのかもしれない。人と人との連携という意味では、本日が終わりではなく、今後も、大学などを通して、いろいろなネットワークによる連携を、十分活用してほしいと思います。それもまた、人知還流につながるのではないのでしょうか。

最後に、自分を信じ、自らの世界を切り開いて行かれることを心から祈念して、私からの式辞に代えたいと思います。皆様の、今後の発展を強く期待しております。

本日は、誠におめでとうございます。

令和4年3月19日
公立千歳科学技術大学長
宮永喜一